

※探究する授業：「問いのある授業」が充実し、発展的に連続することで実現する（「令和6年度 教育課程編成・学習指導の基本」p. 3、長野県教育委員会）

研究の要旨

令和6年度教育課程編成・学習指導改善の取組みの一つである「探究する授業」の実現に向けて、本研究チームでは、県内公立中学校を対象に、探究的な学びを支える学校の取組みや、教科学習の実態、教員の意識を調査した。調査結果から、教科学習における探究的な学びを支える上で、以下に挙げる学校・教師の取組みが大切であることが見えてきた。

【学校・教師の取組み】

- ・探究的な学びをイメージしやすいように校内で定義付け、教職員間で共有し、納得感をもって実践する
- ・生徒の素朴な疑問や考えを尊重し、問いに対して個々が見通しをもって追究できるような手立てを講じる

さらに、探究的な学びの充実に向けては、次のような方向性が示唆された。

【方向性】

- ・各教科の学習過程と内容等も踏まえて、「習得・活用・探究」の学習場面を具体化すること
- ・生徒が学ぶ過程で教科の奥深さを味わえるように、教師の専門性の向上に努めていくこと

キーワード：探究的な学び、学習過程、問い、見通し、教師の専門性

調査内容

本調査は、飯田市立飯田西中学校を対象に実施し、令和6年7月5日（金）に授業視察、後日、意識調査を行った。

1 探究的な学びを支える学校の取組み

飯田西中学校では、令和4年度から現在に至るまで、「探究的な学び」を意識した授業改善に取り組んでいる。特徴的なことは、学校として「探究的な学び」とはどのような学びを指すのかを定義し、拠り所としていることにある（図1）。

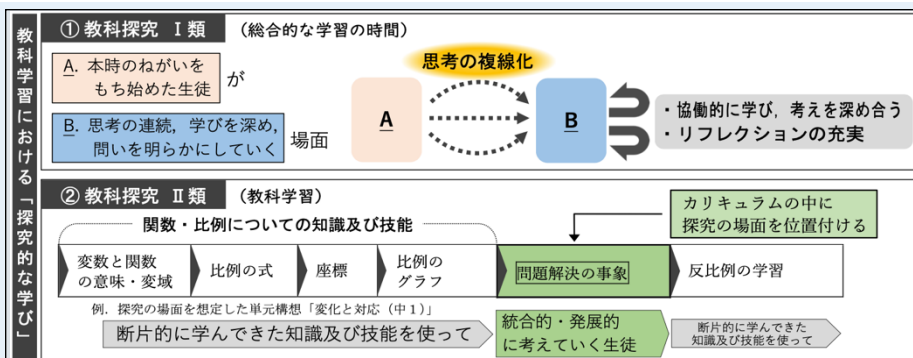


図1 飯田西中学校で定義する「探究的な学び」



飯田西中学校が定義する「探究的な学び」と、県で定義する「探究する授業」はつながるものとする。

しかし、すぐに「探究的な学び」を定義付け、共有できたわけではない。まずは、組織として目指す方向が揃うように、教職員の負担を軽減する環境づくりと、研究や研修に向かう教職員の意識の醸成が必要であったことから、管理職や研究部が中心となり、以下のような取組みを行ってきた。

- ☑ 学校訪問支援の派遣要請……主事と教職員との関係を深め、校内の教職員同士が共に考え合う機会を増やすことで、授業を見合うことへの抵抗感を減らす。
- ☑ ちょっと研修講座……職員会議の前後15分を活用し、「問いとは」「学習問題と学習課題の違い」「リフレクションとは」「各教科等の特質に応じた『見方・考え方』」「探究で大事にしたいこと」等、全教科に通じる授業改善の視点を学び合う。
- ☑ 早く帰ろうキャンペーン……会議時間を守り、議題の精選を図る。
ICTを活用し、業務効率化を推進する。

→ 授業の話題が飛び交う職員室の実現、超過勤務の削減等の改善が顕著になった。

2 教科学習の実態

参観した授業のうち、本稿ではT教諭の実践を紹介する。2年生の数学では、「連立方程式の利用」の単元で、生徒自身が生活に関連する問題を考え、作問する活動（図1：②教科探究Ⅱ類「問題解決の事象」）を行った。学習問題「連立方程式の利用問題を作ろう」に取り組む二人の生徒の追究と結果を比較すると、それぞれのアプローチは異なっていた。

Aさんは、自分で考えた情報だけでは解が得られないことに気づき、問題設定を変更した。Bさんは、新たな条件を加えることで解決策を見いだした（図2）。自ら条件を調整しながら試行錯誤する生徒の姿から、「断片的に学んできた知識及び技能を使って、統合的・発展的に学んでいく」という飯田西中学校で考える探究的な学びにおける生徒の姿（図1）の一端を垣間見ることができた。

Aさん

50円の消しゴム
200円のノート
70円の鉛筆

合計15個買って、金額1660円

$x + y + z = 15$
 $50x + 200y + 70z = 1660$

計算してみたが・・・解けない・・・

3つの解を諦めて
消しゴムと鉛筆の2つに変更

専門主事C

数量関係のヒント2つ

数量関係のヒントを1つ加えた

Bさん

バスケットボールの3点シュート
2点シュート
1点シュート

合計18本入って、得点40点

2点シュートの本数は総得点の4分の1

$x + y + z = 18$
 $3x + 2y + z = 40$

$y = 40 \times \frac{1}{4} \rightarrow y = 10$
 $x = 6 \quad z = 2$

3つの解の問題が作成できた！

専門主事D

図2 AさんとBさんの追究と結果の比較

【T教諭の実践に学ぶこと】

こうした生徒の探究を支えたのは、T教諭による次のような手立てがあったからだと考える。

- ・ウォーミングアップ問題（前時の復習）
学習問題の解決に向けて、ウォーミングアップ問題を提示し、「問題を作る上で、どのようなことに気を付ければいいかな？」と発問し、学習課題につなげた。生徒が追究する際のポイントを明確にし、見通しをもてるようにした。
- ・生徒の素朴な疑問や考えを尊重する姿勢
生活事象を基に「解が3つでも解けるかな？」と疑問を抱き、作問に挑戦しようとする生徒の姿を否定せずに尊重した。数学的にどのような工夫が可能かを一緒に考えた。

3 教員の意識

日々の授業づくりに関する教員の意識を把握するため、Google フォームによるアンケート調査を実施した。質問項目は二つ設定し、一つ目の「教科学習で意識して取り組んでいること」では、8つの選択肢から該当するものを複数選択し、その具体を記述する形式とした。二つ目の「探究的な学びを進める上で感じている課題」では、自由記述形式とし、教員の具体的な考えや経験を収集できるようにした。

以下の表は、回答数が多かった選択肢及び多く挙げられた意見をまとめたものである。

1 教科学習で意識していること		2 探究的な学びを進める上で感じている課題	
該当する選択肢	記述例	意見の分類	記述例
生徒が問いや願いをもつこと	・予想を出し合う雰囲気づくり ・導入での人や事象との出会い	授業時間の確保	・教科書の範囲が終わらない ・新たな問いを追究する時間がない
生徒が追究したことをまとめたり、表現したりすること	・追究した結果を表等にまとめる ・個別に考えたことを相手に伝える ・自分なりの答えを記す	教科の特性	・単元等によっては探究が難しい
生徒が自身の学びを振り返ること	・単元や題材を通した振り返り ・振り返りの共有	学習意欲の喚起	・受け身になりがちな生徒がいる ・生徒が自分で計画、進行できない

表 アンケート調査から得た教員の意識（N=10）

表から、飯田西中学校では、授業の導入から終末まで、生徒が主体となるように意識して取り組んでいる教員が多いことが分かる。一方、探究的な学びを進める際、「授業時間の確保」や「教科の特性」に対して課題を感じる教員も少なくない。このことから、校内で探究的な学びを定義した上で、各教科の学習過程に照らし、どの内容等で実施できそうかを一層明確にしていくことが必要だと考える。また、受け身になりがちな生徒の存在を認識していることから、現在の取組みを一層充実させていくとともに、生徒が学ぶ過程で教科の奥深さを味わうためにも、教師の専門性の向上は欠かすことができないものと考えられる。